

## 町田市議会・志政クラブ報告

# 吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード  
でブログ閲覧



インターン生を同行

## 町田市議会が各交通機関に求める要望について

町田市議会は多摩・八王子・日野・稲城の各市議会議長が合同して、南多摩市議会を代表して関係交通機関の本社などに（小田急・多摩都市モノレール・東急・京王・JR・首都高速道路）に交通機関の整備促進の要望を毎年行っています。

### 議会の交通改善要望事項

町田関係で主な要望事項を、下記に列挙しました。「小田急」には、鶴川駅の南口整備と急行停車や唐木田駅からの横浜線方面への延伸。さらに、町田駅第1・第2踏切の遮断時間の改善（→ 第1踏切には、この2月23日より地下道にエレベーターが設置されます）をもう



「多摩都市モノレール」には、多摩センターからの町田への延伸。「東急」には、平日における田園都市線南町田駅の急行停車やJR横浜線への直通乗り入れ。「京王」には相模原線の始発最終電車の時間延長。「JR」には、横浜線に女性専用車両の導入、車両の長編成化や重層車両の導入。欠かせないのが、大戸踏切の立体化協力です。

道路改善では、首都高速道路株式会社に料金二重払いの解消に向け東名高速の首都高編入を求めています。

## 志政クラブの追加要望

今回の要望で、私が所属する「志政クラブ」は、新たに「小田急」にメトロ方面への特急ロマンスカーの増便、「JR」には横浜線のはまかいじの増便（平日運転）などを議会要望に追加して盛り込みました。

また、これらの議会要望には入っていませんが、「志政クラブ」会派独自の政策で、私が重点を置いてきた「リニア中央新幹線」開通の促進を要望項目として提起しています。

## 第25回セミナー開催案内

日時：3月20日（日）PM1:30～3:30  
場所：町田市民フォーラム 4F 第1集会室 B  
所在地：町田市原町田 4-8-9（小田急町田駅 徒歩8分 JR 町田駅徒歩3分）

\*町田市内で一番背が高いビルの4階  
テーマ：「もうこれで転ばない!!『接骨院 院長が教える 転ばぬ先の転倒予防教室』  
講師：柗屋富治郎先生（町田市接骨師会会長）  
（柔道整復師、マサヤ接骨院 院長）

主催：町田市議会議員 吉田つとむ事務所  
\*時間内で市議会報告も行います。  
\*入場は無料です。また、飲食はありません。  
会場内の席は、事前申し込み優先です。  
\*当初のタイトルをよりわかりやすく変更しました。

## ★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> 発見動画チャンネル <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E103-13 吉田つとむ（市議会議員）

# 町田市議会・志政クラブ

# 吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード  
でブログ記事



双方向の情報交流

## 乗合タクシーの交通システム

今月 5 日、「みんなに優しい交通サービスを考える集い」(あいほら住民福祉協議会主催＝本徳亘良会長)に出席しました。地域の皆さんによる自主的なセミナーでしたが、乗合タクシー方式によるデマンド交通システム(電話による予約方式)に関して、その考案者である奥山修司先生(福島大学経済経営学類教授)の講演をお聞きしたいと思い、駆けつけました。



奥山修司先生の講演テーマは、「高齢者にやさしい地域交通のあり方」とするもので、自分が提唱して、福島県南相馬市小高地区(旧小高町)に実用化された、新多目的交通システム「おだか e-まちタクシー」～低定額制の電話予約(デマンド)による乗合方式によるドア・ツウ・ドアで運行する”バスより安価なタクシーによる”IT活用型のデマンド交通システム～に関するものでした。

これからの高齢化社会において、過疎的な地域であっても有効に機能する交通手段として、平均乗客数が 2～3 人でも採算がとれて料金が 300 円以下に収められている、非常に

意欲的な取組であり、さらに、日々改善されていることが注目されるべきものでした。

## 相原地区住民の意欲の高さ

こうした特徴を持った交通システムが、この相原地区で運行されると、今まで最寄りの交通機関を利用するのに非常に困難であった地域において、自家用車を運転できない方や一般のタクシーを利用しづらかった人たちに大きな生活改善をもたらすことでしょう。

この町田市の西に細長く存在する相原地区は、起伏に富んだ丘陵地が多く、縦方向にはメインの通りが町田街道以外になく、このシステムが導入できれば、住民交通に大幅な変動をもたらすことでしょう。



もちろん、こうした新交通システムを導入することは既存交通体系にとってなかなか容認されることが困難であり、交通機関が自ら運行を計画することの期待は決して高くありませんが、地元住民の同意に基づく「共済方式」の運用も検討されねばならない可能性もあるようです。

この新交通システムの導入研究に関して、当初から地元の法政大学の協力があることは地域住民の皆さんにとって、心強い支えになっているものと言えます。

掲載記事、あるいはご関心ごとを、ご自由にお書き下さい。下記の FAX 送信先にどうぞ。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

ご連絡、お問い合わせは電話・FAX、メールにて。Mail [yoshidaben@gmail.com](mailto:yoshidaben@gmail.com)